

小岳登山コース

行程：2.5～3 キロメートル

所要時間：1.5～2 時間（片道）

小岳（1,042 m）の頂上へ続く登山コースは、旧林道である。もともとは、小川の近くの山小屋の向かい側を起点とする一本の登山コース（旧小岳コース）のみであったが、今では駐車場の近くを起点とする草木が生い茂った林道が、小岳に至る主な登山コースになっている（新小岳コース）。新コースは、旧林道を 900 メートルほど進み、その後は未舗装路となる。新旧両方のコースは、山頂から 800 メートル手前まで続くブナの原生林を通り抜ける。両コースが合流する地点からさらに 300 メートル進むと、歩道は樹木限界から顔を出し、そこからは、白神山地保護区の全景が広がる。

旧登山コースは小川に沿って続き、生い茂るブナの大木のあいだを抜ける。その森には、たくさん枝分かれした一本の木があるが、それは、千手観音菩薩像に形が似ていることから「千手観音」と呼ばれている。両方の登山コース沿いに生えているブナの木の中には、クマが残した特徴的な爪痕が付いた木がある。それらは、栄養価の高いブナの実を探して木に登るツキノワグマが残した食痕である。運が良ければ、熊がブナの実を食べるときに座るために枝を集めて作った棚状の「クマ棚」が見られるかもしれない。